

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300015		
法人名	有限会社 メーサーサービス		
事業所名	グループホーム楽家生		
所在地	三重県鈴鹿市南玉垣町5470番地		
自己評価作成日	平成26年11月7日	評価結果市町提出日	平成27年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490300015-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様目線を大切にされた支援を心掛けています。 ・正看護師を配置しており、看護師の視点による健康状態の把握や利用者の重度化への対応を行っています。また、医師との連携、通院介助にも力を入れています。 ・できる限り家庭に近い環境整備を整え、ゆったりと安心して毎日が送れるよう支援させていただいております。また、外出や行事を通し季節の移り変わりを実感していただいたり、ボランティアさんや地域の方とのつながりも大切にさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昔のお伊勢まいりの道と23号線という幹線道路が交わったところに事業所があり、古いきりも残っている地域の中に、事業所も溶け込んでいるのを感じる。「誰にも気兼ねせず、楽しく、自分の家のように…」それが楽家生、と事業所パンフレットの表紙に記載しているように、職員全員が自分の家のように感じている。自分の親が入居しているようで、娘としての行動をとっている、と職員は言う。それくらい利用者職員は、お互い信用し合っているし仲も良く、楽しい穏やかな雰囲気である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年以内の職員が多く、理念が浸透しているとは言えない。	特に理念について唱和するようなことはせず、日常の仕事の中とか、会議で運営方針にかかわる話をするときに理念についての考えを職員に話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、運動会に参加している。	日常の散歩や自治会のゴミ当番等での交流から、地域の年間行事である夏祭りや運動会は見ただけでなく踊りの輪に入ったり、パンくい競争に出場したりと、地域の一員となっている。	温かく迎えてくれている地域に対し、事業所の力を活かした「健康推進教室」とか「認知症相談窓口」等を開催し、地域に協力することを考えている。ぜひ実現させてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行っており、活動報告や意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	ほぼ2ヶ月ごとに会議を開催し、利用者の状況や活動報告をし、それに関し出席者から意見をいただいている。また自治会からは今後の行事予定の情報もいただいております積極的に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回、市の相談員を受け入れている。	市や包括へは、管理者が関係書類の提出に出掛けているし、所長も多くの関係者と情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束について話し合ったり、指導してもらったことを参考に取り組んでいる。	経験年数の浅い職員もおり、次長を先生に拘束についての勉強会をしている。利用者の安全を優先した考えで、家族とも話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の訴え、身体の状態を観察し、早期に発見できるよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現場職員は行っておらず、代表者に任せている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今以上に一人ひとりの要望を取り入れ、反映させていく必要を感じる。	面会時に聞く機会を設けてはいるが、意見・要望は少ない。毎月利用者各人の状態や活動時の様子を、身体面・精神面・社会面に分けて担当職員が家族に伝えているし、医師の療養管理指導書も家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見・提案を聞いている。	日常の仕事の中や会議で意見を吸い上げており、主にケア関係は管理者が、運営関連は所長が受け止めている。最近では介護備品や電気製品の購入要望があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給の希望、労働時間など条件に合わせてもらえているが、やりがいや向上心を持って働けるよう努めてほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修は十分とは言えない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模事業所が集まり、年1回の作品展を開催している。そこで交流する機会などを設けているが、それ以外の取り組みまでは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にし、言葉の中から気持ちを引き出し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をしていただき、不安なことや要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談の中での確にニーズを捉え、入居による環境の変化からくる不安や戸惑いなどを考慮し、支援に当たれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩、敬愛される人として強弱のない関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事などへの参加を呼びかけ、本人、家族との関係が維持できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状等を通じて以前の関係が維持できるよう支援している。また馴染みのある方が訪問された時は本人のエピソードを聞いたりしている。	馴染みの美容院や、喫茶店にコーヒーを飲みに出掛ける利用者もいる。また、毎月訪問してくれる傾聴ボランティアが利用者の馴染みの人であり、交流を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のレクリエーション、行事などでお互いが関わり合いが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等がある場合は対応し、関係が維持できるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を取り入れている。本人の意向や希望に添えるよう努力している。	日常の話の中でポロツと出た思いや意向を書き留めたり、介護計画作成時には意識して把握に努めている。利用者担当職員が、センター方式の用紙に記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聞き取りや入居前に自宅を訪問を行っている。アセスメントを行うなかで、その方の生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士でも気づいたことなど情報交換を行い、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを行い、現状に即した支援が行えるよう心掛けている。	個別記録や申し送りノート、業務日誌等の日常の記録に利用者・家族の意見、看護師の意見、医師の療養管理指導書を参考に毎月の職員全員会議でモニタリングを行い、介護計画書につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残すと共に、会議等を通じて介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や活動時の様子など、月1回手紙にして家族に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや運動会に参加している。その中で心身の力を発揮できる踊りや競技に参加し、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にも協力してもらいながら、職員も通院の支援を行っている。	内科は利用者全員が協力医で2週間毎に往診を受けているが、眼科や皮膚科等の専門医は従来からのかかりつけ医であり、通院援助は職員が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、介護士との情報交換や病状の把握に努めている。必要であれば受診を行い、情報の共有や支援に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往歴や内服薬を記した個人カルテを作成している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の代表が終末期のあり方について話をしている。地域の関係者とチームでの支援までは至っていない。	既に2件の看取りを行っているが、職員の入れ替わりもあり看取り経験者が少なく、職員教育に力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について意見交換を出し合っているが、実践力は身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。地域の方にも参加を促し、問題点など意見をいただいている。	夜間の火災を主に想定し、連絡・消火・避難訓練を年2回行っている。地震に対しては、指定避難所は遠いため、避難しない方向で考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉遣いを心掛けている。	先輩職員が丁寧な言葉づかいをしているので、新人職員も見習っている。また部屋に入るときの声掛けはもちろん、部屋の中にあるトイレに入るときも、カーテンは閉めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話等のなかで意思表示や自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の仕事の都合で支援する時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の好みを決定するのが難しい方もみえアドバイスなどの支援を行っているが、できる方には決めていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の方は一緒に行えている。	利用者の希望を聞きながらメニューを作っている。食材の購入から調理まで職員がしており、利用者もできることを手伝っている。朝食はパン食の人が多いが、和食希望にも応えている。うなぎ・すしの外食もあり、誕生日には特別食となる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、管理している。一人ひとりの状態に応じ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じケアを行い、歯科往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつは使用せず、紙パンツで対応している。排泄リズムを記録することで把握し、トイレ誘導を行っている。	オムツは使用せず、紙パンツ・布パンツでトイレでの排泄支援を行っている。下痢等の場合も、立ち上がりやそわそわする仕草で気付くようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には牛乳やヨーグルト、果物など整腸作用があるものを提供している。日中もレクリエーションや運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっているが、希望者には入ってもらっている。	週3回を基本に、希望者には午前・午後いつでも入れる体制になっている。季節の柚子・菖蒲湯はもちろん、入浴剤を使って色を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて休憩や寝床してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のカルテや看護ノートがあり、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみに触れていただけよう支援している。家事(洗濯物干し、食器洗い)等、能力に応じ参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分にできているとは言えない。家族の協力を得て出かけられている。	事業所の前が桜の木が多い公園であり、日光浴やちょっとした散歩には非常に良い場所である。季節の花見など定期的な遠方の外出はできるが、その日いきなり外出したいといわれても、職員の手が足りないときもあり、応じられない悩みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方についてはお小遣いを所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話が行えるよう支援している。年賀状は毎年書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるような作品を入居者の方と製作している。また季節の花を生けたりしている。	廊下・居間兼食堂も明るく、床は藤クッションでやわらかく、素足で歩きたい気持ちになる。壁には大きな額形で、行事の写真が楽しいコメントと一緒に貼り付けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、いつでもくつろいでいただけるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた思い出の物や好みの物などを持ってきていただき、居心地よく過ごしていただける住環境作りに努めている。	約10畳の広さがあるので、ベット・トイレ・洗面台があってもゆったりとダンスや椅子、テレビ等が置ける。趣味の塗り絵、伊勢型紙、折り紙等飾っている人もあれば、小さな仏壇を持ち込まれている人もあり、それぞれ自分の部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただけるよう配慮し、その方の能力に応じた自立した生活ができるよう工夫している。		